

### 【今週の注目疾患】

#### 《つつが虫病》

2024年第50週に県内医療機関から3例の届出があり、本年の累計は34例となった。県内では、例年11月頃から翌1月頃にかけて届出数が増加する傾向にあり（図）、引き続き注意が必要である。推定感染地域は県南部が多いが、他の地域でも発生がみられている（表）。

図：2020年から2024年の県内のつつが虫病の診断年月別届出数（2024年第50週時点）

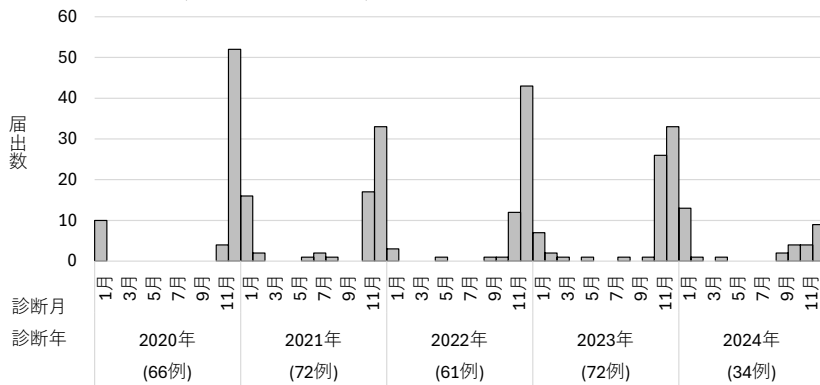


表 2020年から2024年の県内のつつが虫病の推定感染地域別の届出数（2024年第50週時点）

保健所地域	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	総計
安房	30	39	30	34	16	149
夷隅	18	17	9	10	3	57
君津	4	4	4	4	1	17
市原	1	1	7	5	1	15
海匝	4	2	1	2		9
長生	2			3	1	6
印旛				2	4	6
香取	2	3				5
山武	2		2	1		5
千葉市				1		1
船橋市				1		1
県内（市町村の記載なし）	2	5	7	6	5	25
県外		1	1			2
海外				1	1	2
不明	1			2	2	5
総計	66	72	61	72	34	305

つつが虫病の病原体は *Orientia tsutsugamushi* と呼ばれるリケッチアで、ダニ類の一種であるツツガムシが媒介する。わが国で本菌を媒介するツツガムシは主に3種類であり、それぞれのツツガムシの0.1～3%が菌をもつ有毒ツツガムシである。ヒトはこの有毒ツツガムシに吸着されると菌に感染する。潜伏期間は5～14日で、典型的な症例では高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なツツガムシの刺し口（黒色痂痂）がみられ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになる。また、患者の多くは倦怠感、頭痛を訴え、患者の半数には刺し口近傍の所属リンパ節、あるいは全身のリンパ節の腫脹がみられる。有効な抗菌薬（第一選択薬はテトラサイクリン系）があるが、死亡例が報告されているため、適切な診断・治療が重要である<sup>1)</sup>。

本疾患を予防するワクチンはないため、ダニの刺咬を防ぐことが極めて重要となる。キャンプやハイキング、農作業や草刈り等で山林や草むら等に立ち入る際には、(1)長袖長ズボンなど肌の露出が少ない服装にする、(2)忌避剤（防虫スプレー）を使用する、(3)地面に直接座らずにレジャーシート等の敷物を使用する、(4)帰宅後はすぐに着替え、洗濯する、(5)帰宅後はすぐに入浴する、などの対策をとる<sup>1-3)</sup>。

■参考・引用

- 1)国立感染症研究所：IDWR 注目すべき感染症 ダニ媒介感染症 つつが虫病・日本紅斑熱  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/tsutsugamushi-m/tsutsugamushi-idwrc/10682-idwrc-2136t.html>
- 2)千葉県衛生研究所：つつが虫病に注意!  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/documents/tsutsugamushi.pdf>
- 3)千葉県健康福祉部疾病対策課：ダニ媒介感染症について  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/tick.html>

【Topics】

《年末年始に海外へ渡航される皆様へ》

海外においては、国内では見られない感染症が流行していることがあり、海外滞在中に感染する可能性があります。海外へ渡航する際には、事前に渡航先における感染症の流行状況、現地滞在中の注意点、海外渡航に際し推奨されている予防接種をご確認ください。

また、感染症には、潜伏期間（感染してから発症するまでの期間）が数日から1週間以上と長いものもあり、渡航中や帰国直後に症状がなくても、しばらくしてから具合が悪くなる場合があります。その場合は、医療機関に事前に電話連絡して海外渡航歴があることを伝えた上で受診し、渡航先、滞在期間、現地での飲食状況、渡航先での活動内容、動物との接触の有無、ワクチン接種歴等についてお伝えください。その他詳細は下記をご参照ください<sup>1-3)</sup>。

なお、2024年に県内医療機関から届出のあった感染症のうち、海外で感染したと考えられるものは次のとおりです。

表 2024年に県内医療機関から届出のあった海外で感染した可能性がある感染症（2024年第50週時点）

感染症名	全届出数	うち推定感染地域に海外を含む届出数*	記載のあった海外の地域
細菌性赤痢	6	3	アジア
腸管出血性大腸菌感染症	180	15	アジア、中東、欧州
腸チフス	2	2	アジア
A型肝炎	5	2	アジア
コクシジオイデス症	2	2	北米
チクングニア熱	1	1	アジア
つつが虫病	34	1	大洋州
デング熱	21	21	アジア、北米
ブルセラ症	2	2	アジア
マラリア	5	5	アジア、アフリカ
ライム病	1	1	欧州
類鼻疽	1	1	アジア
レジオネラ症	126	3	アジア
アメーバ赤痢	24	1	アフリカ
ウイルス性肝炎	13	1	アジア
後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	34	3	アジア
侵襲性髄膜炎菌感染症	5	1	アジア
水痘（入院例）	19	1	アジア
梅毒	429	6	アジア
百日咳	63	1	アジア
麻しん	1	1	アジア

\* 推定感染地域に国内及び国外の両方の記載がある届出を含む

■参考・引用

- 1)厚生労働省検疫所 FORTH：海外へ渡航される皆さまへ!  
[https://www.forth.go.jp/news/20220722\\_00001.html](https://www.forth.go.jp/news/20220722_00001.html)
- 2)【感染症エクスプレス@厚労省】Vol.518（2024年8月4日）  
<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/backnumber/2024-08-04.html>
- 3)【感染症エクスプレス@厚労省】Vol.519（2024年8月19日）  
<http://kansenshomerumaga.mhlw.go.jp/backnumber/2024-08-19.html>